

とちぎの子どもの「確かな学力」向上のために

～平成25年度全国学力・学習状況調査結果から～

平成25年12月 栃木県教育委員会

この資料は、平成25年度全国学力・学習状況調査の結果について、県全体の状況や全国（公立）との比較から分かる特徴についてまとめたものです。「確かな学力」向上のための指導改善にお役立てください。

1 教科に関する調査の結果から

(1) 各教科の平均正答率

小学校では、平成24年度と同様に、国語A・B、算数A・Bの全てで**全国**の平均正答率を下回っており、特に**算数B**はやや低い結果となっています。

中学校では、数学Bは少し下回っていますが、他は全国を少し上回っています。

基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させるとともに、思考力・判断力・表現力等を育成するための学習活動を工夫しましょう。

特に、言語活動を充実させるなどして、以前から本県の課題となっている「理由を説明したり資料等を読み取ってまとめたりする力」を育てましょう。



○ 本県の平均正答率 (%)

<小学校第6学年> () 内は全国(公立)との差

問題	H19	H20	H21	H22	H24	H25
国語A	81.7 (0.0)	64.3 (-1.1)	68.8 (-1.1)	82.9 (-0.4)	80.4 (-1.2)	61.1 (-1.6)
国語B	61.0 (-1.0)	49.5 (-1.0)	49.9 (-0.6)	77.2 (-0.6)	54.2 (-1.4)	47.9 (-1.5)
算数A	81.1 (-1.0)	71.4 (-0.8)	78.9 (+0.2)	74.8 (+0.6)	72.6 (-0.7)	76.8 (-0.4)
算数B	62.1 (-1.5)	50.7 (-0.9)	53.3 (-1.5)	49.0 (-0.3)	56.6 (-2.3)	56.3 (-2.1)

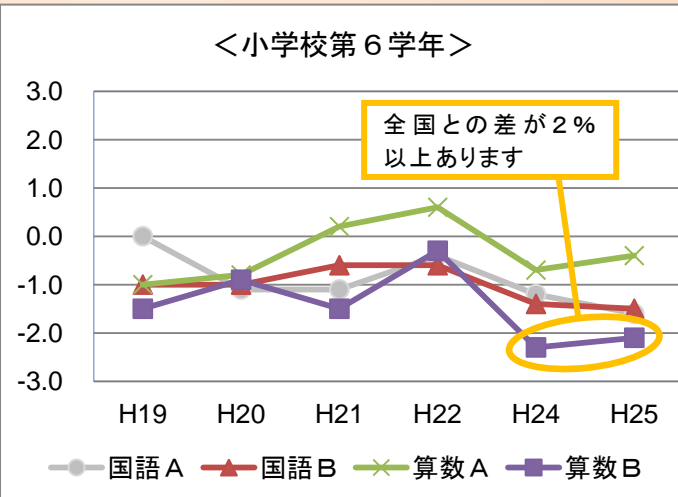
<中学校第3学年> () 内は全国(公立)との差

問題	H19	H20	H21	H22	H24	H25
国語A	82.7 (+1.1)	73.7 (+0.1)	77.8 (+0.8)	74.8 (-0.3)	75.4 (+0.3)	77.2 (+0.8)
国語B	74.0 (+2.0)	60.8 (0.0)	76.5 (+2.0)	65.8 (+0.5)	63.7 (+0.4)	68.0 (+0.6)
数学A	71.9 (0.0)	62.4 (-0.7)	62.8 (+0.1)	63.8 (-0.8)	61.6 (-0.5)	63.8 (+0.1)
数学B	60.6 (0.0)	48.5 (-0.7)	57.9 (+1.0)	42.8 (-0.5)	49.6 (+0.3)	41.1 (-0.4)

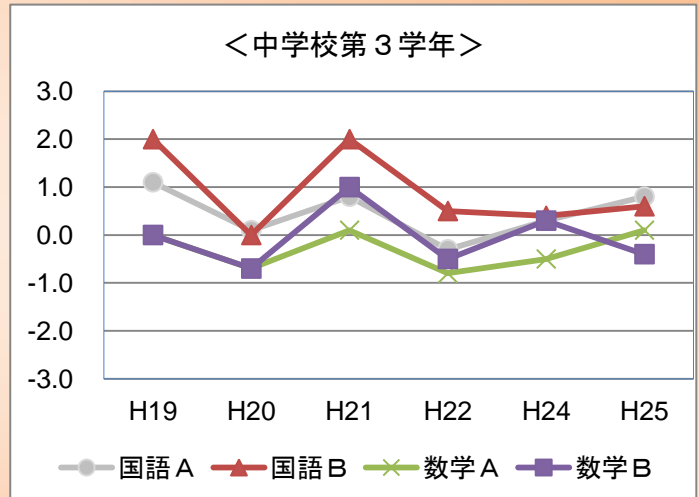
[H22,24 は抽出校の平均正答率]

○ 全国の平均正答率との差 (%)

<小学校第6学年>



<中学校第3学年>



(2) B問題における正答数分布



正答数分布グラフは、正答数ごとの児童生徒の割合を表したものです。グラフの形から、問題の難易度や集団のどの部分に課題があるかを分析することができます。ここでは、B問題の正答数分布をみてみましょう。

小学校の国語 B では7問以上、算数 B では10問以上正答した児童の割合が全国を下回っています。

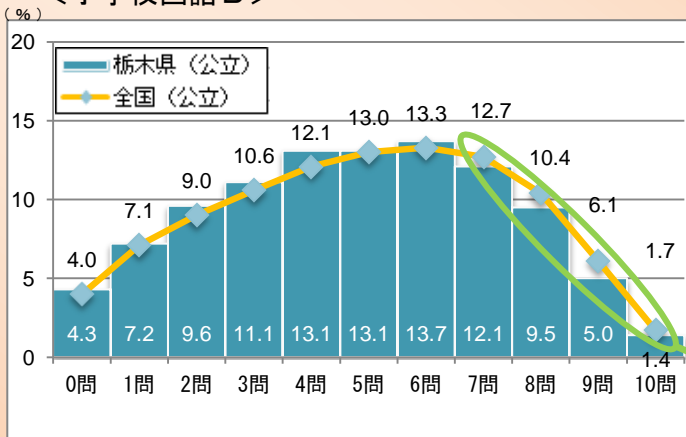
中学校の国語 B では9問のみ、数学 B では11問以上正答した生徒の割合が、全国を下回っています。

本県のグラフの形は全国とほぼ同じですが、正答数の多い層がやや少ないことが分かります。個に応じた指導を充実させる中で、正答数の多い層に入る児童生徒への指導についても工夫していきましょう。

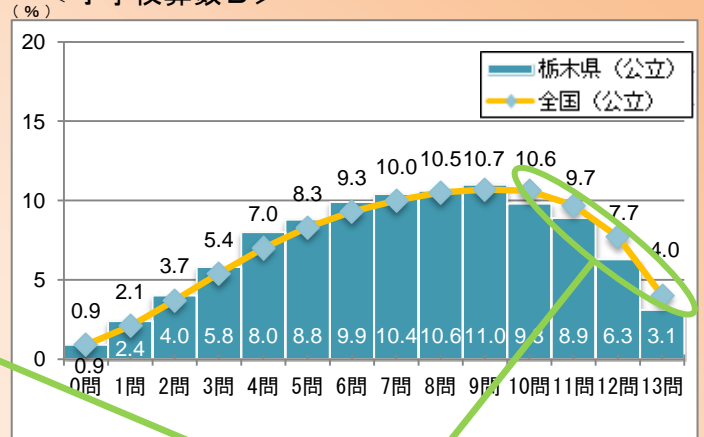


○ B問題における正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）

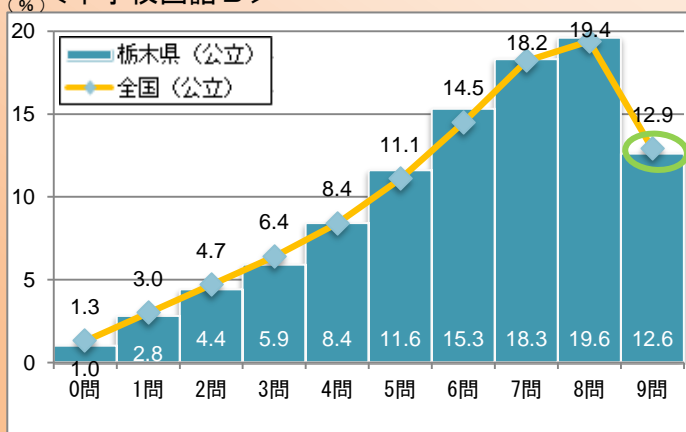
<小学校国語B>



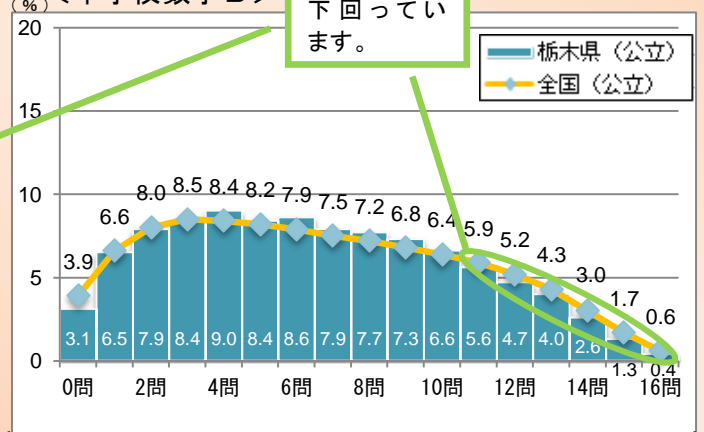
<小学校算数B>



<中学校国語B>

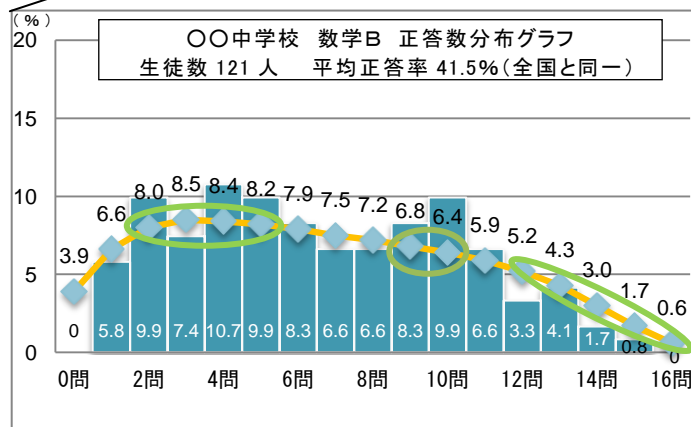


<中学校数学B>



全国の値を下回っています。

右のグラフは、平均正答率が全国と同じになるように作成した、中学校数学Bのサンプルです。このように、平均正答率が同じでも、学校によって分布が異なる場合があります。



自校の正答数分布グラフはどのような形を描いているでしょうか。正答数ごとの分布の状況を確認し、指導に生かしてください。



2 児童生徒質問紙調査の結果から

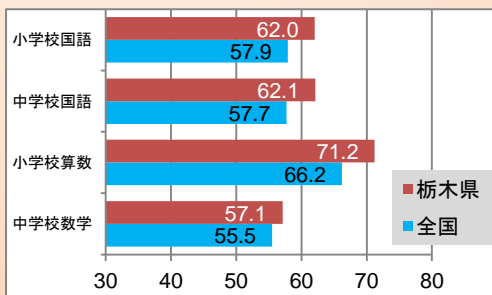
(1) 家庭での学習や生活の状況

学習に対する関心や意欲、家庭学習の状況、自尊心などについての肯定的な回答の割合※は、全国（公立）を上回っています。

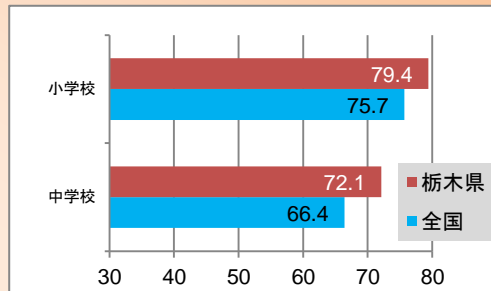
計画的に学習している児童生徒は小学校で6割、中学校で5割程度です。また、約4割の児童が3時間以上テレビやビデオ等を視聴しています。

学習意欲や自尊心に関わる項目については望ましい傾向がみられます。しかし、計画的な家庭学習の取組などは、全国より高いものの、まだ十分とはいえません。また、テレビ等を長時間視聴している状況も課題です。今後とも、家庭の協力を得ながら改善を図っていく必要があります。

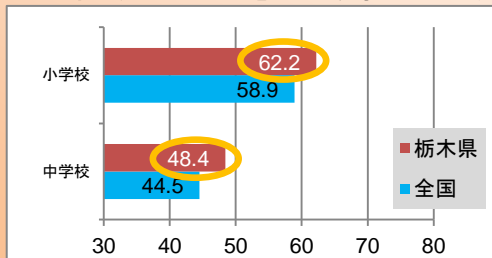
< 1 勉強が好きですか >



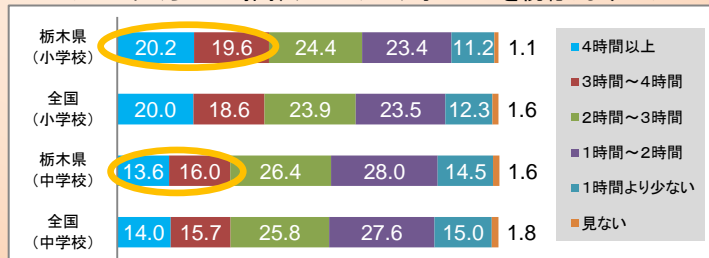
< 2 自分には、よいところがあると思いますか >



< 3 家で、自分で計画を立てて勉強していますか >



< 4 どれくらいの時間、テレビやビデオ・DVDを視聴しますか >



[※1~3 のグラフの数値は、児童生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合(%)]

[4 のグラフの数値は、視聴時間ごとの児童生徒の割合(%)]

(2) コミュニケーション能力に関わる状況

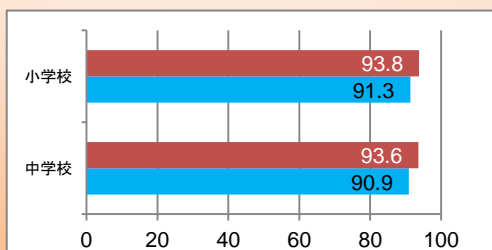
「聞くこと」については、全国と同様に小・中学校ともに、9割以上の児童生徒が肯定的に回答しています。

「意見を発表すること」が得意であると回答した児童生徒は、全国と同程度ですが、5割を下回っています。

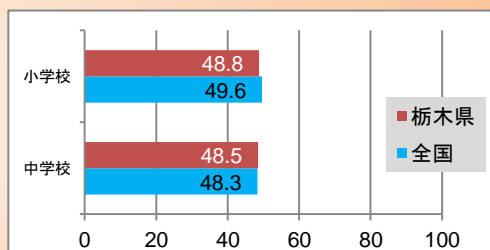
聞く態度に関して、よい傾向がみられます。

一方、発表することについては小・中学校ともに5割に達していません。言語活動を工夫して、コミュニケーション能力を向上させましょう。

< 友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができますか >



< 友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意ですか >



[数値は、児童生徒が「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合(%)]



3 学校質問紙調査の結果から

(1) 家庭学習の指導に関する状況

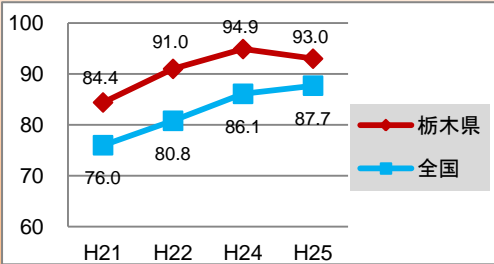
家庭学習の課題の与え方について教職員で共通理解を図ったり、保護者への啓発を行ったりしている学校が、全体として増加しています。

保護者に対して家庭学習を促すような働きかけは、小学校では、非常に高い実施率です。

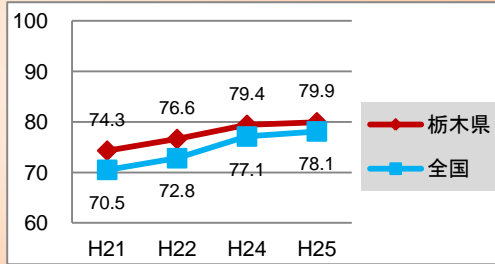
今後とも、家庭学習の充実を図るため、自校の取組を見直していきましょう。特に中学校においては、教科間で連携を図るなどの工夫をしましょう。



<小学校第6学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図りましたか>



<中学校第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、家庭学習の課題の与え方について、教職員で共通理解を図りましたか>



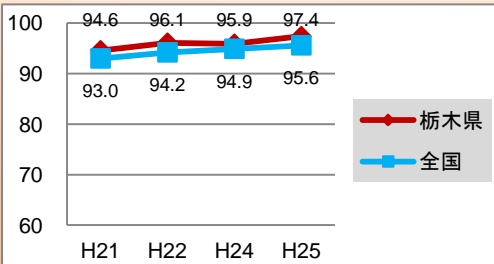
これまで県教育委員会では「家庭学習のすすめ」リーフレット等で、家庭学習の習慣化、宿題の内容の工夫などにより、学力の向上を図るよう呼びかけてきました。

左のグラフから、各学校において、家庭学習を充実させる取組が進んでいることがわかります。

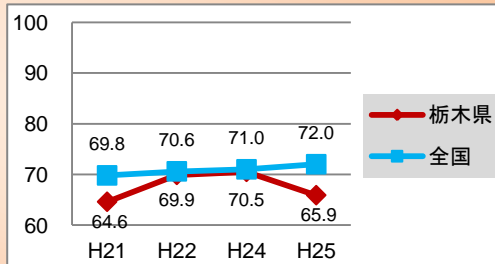


※算数・数学の指導に関する質問でも、同様の傾向がみられます。

<小学校第6学年の児童に対する国語の指導として、前年度までに、保護者に対して児童の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか>



<中学校第3学年の生徒に対する国語の指導として、前年度までに、保護者に対して生徒の家庭学習を促すような働きかけを行いましたか>



[数値は、学校が「よく行った(当てはまる)」「どちらかといえば、行った(当てはまる)」と回答した割合(%)]

(2) 授業研究を伴う校内研修の回数(平成21年度との比較)

平成21年度と比較すると、実施回数は小・中学校ともに増加しています。

0~4回の学校は減少していますが、全国と比べ10%以上多い状況は平成21年度と変わりません。

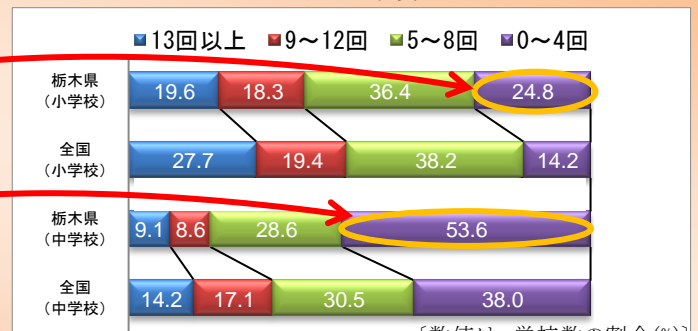
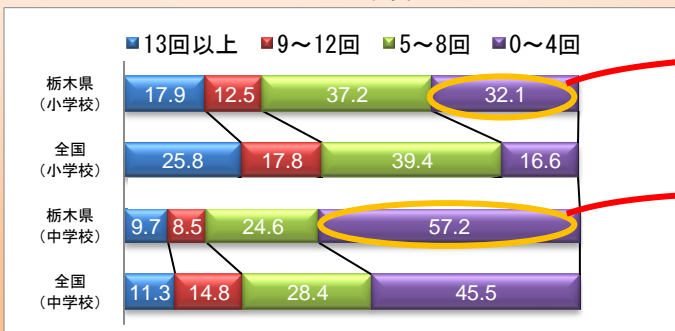
学力向上のため必要な校内研修の内容や回数について、毎年その成果を検証することが大切です。今後、授業研究会を既に数多く実施している学校については、内容の更なる改善・充実を図りましょう。回数が少ない学校は、数人の教員で授業を互いに見せ合う機会を増やすなど、実状に応じて研修の機会を確保しましょう。



<授業研究を伴う校内研修を前年度に何回実施したか>

平成 21 年度

平成 25 年度



[数値は、学校数の割合(%)]

(3) 調査結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行った学校の割合

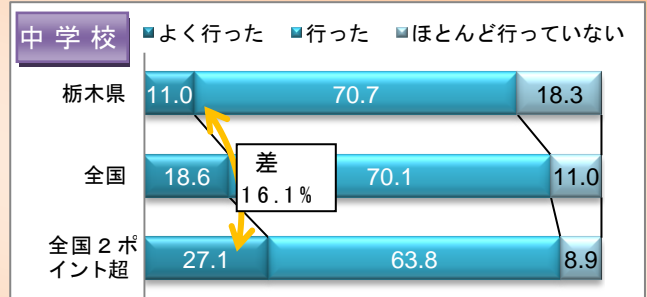
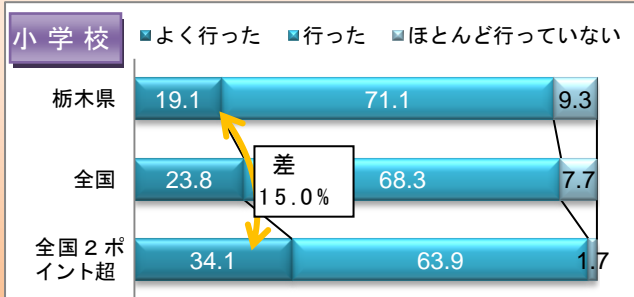
各種調査の結果を活用している学校の割合が、全国より低いことが分かります。

B問題の正答率が全国より2ポイント以上高い都道府県では、「よく行った」と回答した学校が、本県より15%以上多いことが分かります。

正答率が全国より2ポイント以上高い都道府県では、調査結果を積極的に活用している傾向があります。学力向上の検証改善サイクルを構築・運用するため、調査結果の活用を進めましょう。



＜全国学力・学習状況調査及び独自の調査等の結果を利用し、具体的な教育指導の改善等を行ったか＞



[数値は、学校数の割合(%)]

※全国2ポイント超：国語と算数・数学のB問題のいずれかもしくは両方が、全国の平均正答率より2ポイント以上高い都道府県 (小学校：10自治体、中学校：13自治体)

4 児童生徒質問紙調査と学校質問紙調査の比較から

(1) 授業での目標の提示、学習内容を振り返る活動の実施状況

目標の提示については、学校の肯定的回答が9割を超えています。

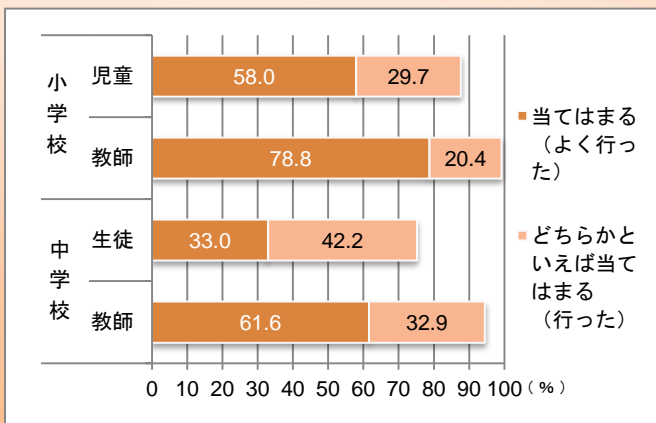
学習内容を振り返る活動(以下、「振り返る活動」)が「よく行われている」と回答した児童生徒が少ないことが分かります。
また、中学生の約半数は、振り返る活動があまり行われていないと回答しています。

県教育委員会では、平成18年に「本時のねらい」を明確に児童生徒に示すことの重要性を、提言として発信しました。このことが定着し、実践されていることがうかがえます。

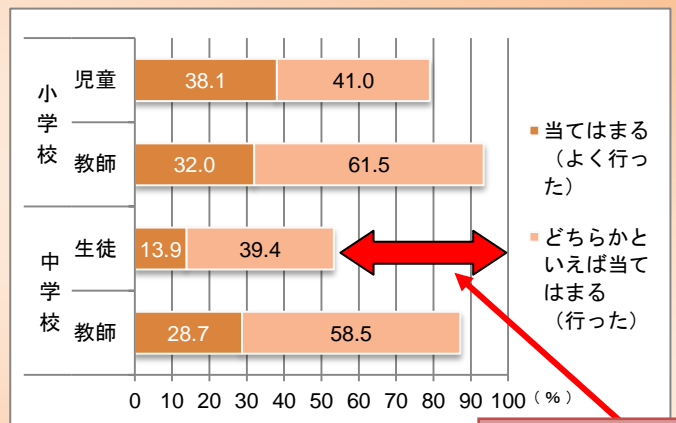
課題となるのは、教師が目標の提示や振り返る活動を行っていると思っても、児童生徒にそのことが伝わっていない状況があることです。



＜普段の授業では、はじめに授業の目標(めあて、ねらい)が示されているか＞



＜普段の授業では、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っているか＞



約半数の生徒が振り返る活動を意識していません。

5 今後の取組について

本県の児童生徒は 学習に関する関心・意欲等が高く、前向きに学校生活を送っていることがうかがえます。また、学校においては、授業の目標の提示が定着してきていることなど、学力向上のための取組が進められていることが分かりました。

一方で、児童生徒のよい傾向が必ずしも学力の向上に結び付いていないことや、学校における調査結果の活用が十分ではないことなどの課題があります。

各学校においては、全国学力・学習状況調査結果や市町独自の調査等を分析し、見出された課題の改善に取り組む際に、本資料で示した本県の状況や調査結果の分析方法等を参考にしてください。

平成26年度からは、全ての公立小・中学校において「とちぎっ子学習状況調査」が実施されます。

県教育委員会では、調査結果活用研修会の実施や担当者による学校訪問などにより、各学校の取組を支援していきます。

今後は、これまで行われてきた各種調査と併せて、とちぎっ子学習状況調査の結果を活用して授業を改善し、とちぎの子どもたちの「確かな学力」を向上させましょう。



とちぎっ子 学習状況調査

この調査は、栃木県教育委員会（「とちぎっ子学力アッププロジェクト」の一環として）公立小・中学校の調査実施者（市町教育委員会）が協力して実施されています。

平成26年度調査実施日：4月22日（火）

調査の目的
 本県児童生徒の学力向上

調査対象
 県内の公立小学校4年度～5年度、中学校2年度
 調査対象となる児童生徒は、調査実施日の前日までに調査票を提出し、調査票を提出した児童生徒が調査対象となります。

調査内容

(1) 児童生徒に対する調査
 ① 専科に関する調査
 小学校4年度～5年度：国語、算数、理科、英語
 中学校2年度：国語、社会、数学、理科、英語

② 基礎学力に関する調査
 専科の基礎学力の向上に資する基礎的・基本的知識、技能及び思考力、理解力、表現力に関する調査

(2) 学校に対する調査
 児童生徒に対する調査結果に関する調査

時期

○小学校（調査実施日は、当該年度終了後以降に、各学校の状況に応じて調査日に実施）
 4年度：4月22日（2時間） 5年度：4月22日（2時間） 5年度：4月22日（2時間）

○中学校（調査実施日は、当該年度終了後以降に、各学校の状況に応じて調査日に実施）
 2年度：5月20日（2時間） 3年度：5月20日（2時間） 3年度：5月20日（2時間）



本県ではこれまでも、「確かな学力」向上に向けて「とちぎの子どもたちの基礎・基本」問題事例集〔基礎・基本編〕〔活用編〕などの資料を作成してきました。

今回、平成25年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、小学校算数における言語活動を充実させた指導例について、現職教育資料（第464号、平成25年12月発行）を作成しましたので、御活用ください。

現職教育資料（第464号）

平成25年12月3日 栃木県教育委員会事務局学校教育課編 第464号

現職教育資料

言語活動を通して数学的な考え方を育成する授業
 ～平成25年度全国学力・学習状況調査（小学校算数）の結果から～

はじめに

平成25年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、本県の児童生徒はこれまでの調査の結果と同様、学力向上の意欲や学習意欲については高い傾向がみられます。しかしながら、専科に関する調査結果については、専科に関する基礎的・基本的知識・技能の向上が課題となることが明らかになりました。この調査結果を踏まえ、授業の改善を図ることが必要とされています。児童生徒のよい傾向や学校の取組の成果が、必ずしも学力向上に結び付いていないことが明らかになりました。

1 全国学力・学習状況調査の結果から

本県の小学校算数における学力向上の状況については、次のような傾向がみられます。

調査結果からみられる本県児童の傾向

- 学習に対する関心・意欲・態度等、生活・学習習慣については高い傾向がみられます。(1)(2)(3)(4)(5)
- 「数量や図形に関する技能」に関する取組については、正答率に一定の差がある。(1)(2)(3)
- 算数の観点では「数学的な考え方」、問題形式では「記述式」の取組において課題がある。(1)(2)(3)
- A、B問題ともに、正答数が多い児童の割合が、全国と比較してやや少ない。(1)(2)(3)

「とちぎの子どもたちの基礎・基本」問題事例集〔基礎・基本編〕〔活用編〕

とちぎの子どもたちの基礎・基本 問題事例集
 〔基礎・基本編〕

とちぎの子どもたちの基礎・基本 問題事例集
 〔活用編〕
 国語

とちぎの子どもたちの基礎・基本 問題事例集
 〔活用編〕
 算数・数学

とちぎの子どもたちの基礎・基本 問題事例集
 〔活用編〕
 理科

とちぎの子どもたちの基礎・基本 問題事例集
 〔活用編〕
 社会

とちぎの子どもたちの基礎・基本 問題事例集
 〔活用編〕
 外国語

○現職教育資料（第464号）、「とちぎの子どもたちの基礎・基本」問題事例集〔基礎・基本編〕〔活用編〕、「家庭学習のすすめ」リーフレット及び本リーフレットは、栃木県のホームページからダウンロードできます。

（栃木県ホームページ＞教育・文化＞学校教育＞学習指導・学力向上）

栃木県教育委員会事務局学校教育課学力向上推進室 〒320-8501 宇都宮市埜田1丁目1番20号 TEL 028-623-3367 FAX 028-623-3399